

## 1. 事前の状況

学級	抽出生徒
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「道徳の授業は大切だと思いますか」「道徳の授業で学習したことが自分の生活や人間としての生き方に役立つと思いますか」という質問に対して、それぞれ96%の生徒が肯定的な回答をしており、道徳の授業に対して前向きに捉え、その必要性を感じていることがうかがえる。</li> <li>・自分の考えを伝えることに消極的な生徒が多いが、4人グループで話し合う活動では、他者の考えを聞くことによって、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている姿が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーシップがあり、自分の考えをしっかりと持っている。道徳科の授業では、自分から進んで発言をすることは少ないが、指名された際には、自分の考えを述べるができる。</li> <li>・道徳科の授業で、多面的・多角的に考えることや自分自身との関わりの中で考えることの可否を問う質問に対して、「当てはまらない」と回答しており、道徳的価値の理解を深めるために、何をどのように考えようかという学び方を理解できていない様子が見られる。</li> </ul>



## 2. 評価とフィードバックに対する指導者の考えや気づき

- ・教材の内容に沿った順接的な板書になりやすく、生徒の思考を整理するために対比的・構造的な板書を行い、板書の評価につなげる工夫をしたい。
- ・教材を事前に一読し、初発の感想を書く活動を設けることにより、1単位時間の学習で生徒が自分の考えをもつ時間を十分に確保したい。



## 3. 評価とフィードバックの充実に向けてのおもな手立て

- ・評価の視点を踏まえて生徒一人ひとりの学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取るために、全員が意思表示を行ったり、じっくり考えて記述や発言を行ったりする活動を設ける。評価したことは、特に個別の言葉がけや意図的指名、ノートの記述に対するコメントの記入によってフィードバックを行う。



## 4. 本時の様子

### (1)本時のねらいと展開

- 主題名 法やきまりの意義【内容項目 C 遵法精神、公德心】
- 教材名 「二通の手紙」(「あすを生きる3」日本文教出版)
- 本時のねらい(下線部は目指す生徒の学びの姿)



元さんの選択について考えることを通して、法やきまりにはそれぞれに必ず成立の意義があるという理解を深め、それらを遵守し、義務を果たすことで、よりよい社会をつくろうとする実践意欲と態度を育てる。

### ●本時における評価とフィードバックの工夫

- ・教材の登場人物の立場に立って考えたり、他の生徒の考えを受け止めたりしている発言や様子が見られたことを評価し、積極的に認める言葉がけを行う。
- ・中心発問で書く活動を設け、記述の内容を把握し、評価した時点で個別に言葉がけを行い、意図的指名につなげる。
- ・終末で本時の学習を振り返る際には、生徒に自身の事前アンケートの回答や初発の感想と比較して考えるように促す。指導者は振り返りの記述に対して、評価の視点を基にコメントを記入して返却する。

## (2) 評価とフィードバックの実際

	学習活動・主な発問	評価とフィードバック ※( )内は見取る対象
導入	1. 事前アンケートの結果を確かめ、主題に対して考える。	
展開	<p>2. 教材「ジコチュウ」を読んで考える。 ○あなたが元さんなら、幼い姉弟を動物園に入れるか。</p> <p>○あなたなら元さんの処分に納得できるか。</p> <p>◎職を辞すと決断したとき、元さんが「気付いた」ことは何だろうか。(中心発問)</p> <p>3. 考えを深める。 ○動物園の規則を作った人は、規則にどんな思いを込めたのか。</p>	<p>評価の視点①②(発言) ☞言葉がけ、意図的指名</p> <p>評価の視点①②(発言) ☞言葉がけ、意図的指名</p>  <p>ネームカードによる意思表示</p> <p>評価の視点④(記述・発言) ☞言葉がけ、意図的指名</p>  <p>記述内容を把握し、個別に言葉がけを行う指導者</p> <p>評価の視点②(発言) ☞言葉がけ、意図的指名</p>
終末	<p>4. 本時の学習で学んだこと、気付いたことを振り返る。 ○この学習を通して、感じたことや考えたことはどんなことか。</p>	<p>評価の視点: 道徳的価値や人間としての生き方についての考えの深まり(記述) ☞コメントと下線の記入</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ときに法律や規則に納得のいかないことがあるけれど、それを破ることは、世間や自分にどのような影響を及ぼすかを考えて行動し、今回の話のように、子どもの親などに称えられたとしても、他の方法があったのなら、その行動に責任をもつべきだと思った。</p> </div> <p>目指す学びの姿に近付いた生徒の振り返りの記述</p>

## (3) 本時に向けた授業構想および実践から学んだこと・気付いたこと

- ・生徒全員がネームカードを用いて4象限の図に意思表示をしたことで、意図的指名により多くの考えを引き出すことができた。多様な考えを比較できたため、生徒が自分の考えを多面的・多角的な見方へと発展するうえで効果的だった。
- ・生徒が教材の登場人物を共感的に理解することが難しかった。道徳的価値の理解を深めるためには、自分にも似たようなことがないか想起し、自分事として考える必要がある。指導者の問い返しや補助発問等の手立てが重要である。
- ・指導者が予想していた反応とは異なり、想定外の発言や記述が見られることがある。そのような場面では、問い返しによって真意や根拠を引き出すことで、全体の学びにつながる。指導者も学級の一員として、自分の考えを表明しながら、共に考えを深めていく態度も大切である。



## 5. 生徒の変容

学級	抽出生徒
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら進んで発言する生徒の数に大きな変化はないが、指導者が指名した際に、発言することを躊躇したり敬遠したりする生徒は少なくなった。積極的に生徒を認める言葉を用いたフィードバックを重ねてきたことで、自分の考えを素直に表現し、他者の考えを傾聴しようとする雰囲気が学級に生まれた。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような考えも否定されず、受け止めてもらえる学級の雰囲気に安心感を抱いており、毎時間、挙手をして自分の考えを発言するようになった。ノートの記述内容を以前と比較すると、友達と考えを交流したことによって自分の考えに加わった新たな視点や考えの変化に対する自覚がうかがえるものになった。</li> <li>・「道徳の授業での言動に対して、先生がよい点を認め、励ましてくれることで、自分のよさが分かり、さらによくしていこうと思いますか」「道徳の授業を通して、自分の成長を感じることがありますか」のいずれの質問も、否定的な回答から肯定的な回答に変わった。</li> </ul>



## 6. 指導者の振り返り(成果と課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校として組織的、計画的な評価とフィードバックを行うことが重要である。個々の指導者が道徳科の授業のみで行うのではなく、評価とフィードバックに重点を置いた授業づくりの効果を学校全体で共有し、取り組めるようにしたい。道徳科の授業を軸として、他教科の授業や学校生活全体で評価とフィードバックを行うことができれば、生徒の自己の成長の実感と意欲の向上により一層つながると考える。</li> <li>・これまでは、道徳科の評価を通知表に記載するうえで、生徒の学びの姿を評価する言葉や表現に悩むことが多かった。本研究に取り組んだことで、授業の中で生徒を受容する言葉や評価する言葉を用いる頻度が増えた。評価の視点を踏まえて授業を構想し、この学習活動でどのような学びの姿を見取るのかというポイントが明確になったからである。その結果、毎時間の授業における評価を蓄積したものの中から、とりわけ顕著な学びの姿について通知表に記述することが可能になった。</li> </ul>
---

## 道徳科の授業を实践される先生方へのメッセージ

道徳科の授業における評価とフィードバックは生徒理解を深めるうえで大きな効果があると感じました。学校教育全体で行う道徳教育の要として、毎時間の道徳科の授業で学習したことが、生徒のこれからの生き方に役立つものとなるような授業づくりを目指し、生徒のよさを受容する言葉や評価する言葉を積極的に用いることが大切だと思います。

